

野研びより

昆虫編 11号

野外生物生態調査研究部 昆虫班

2017年 5月



図 1.コガネグモ♀(2017年5月
21日 学園木花台南)

コガネグモ（黄金蜘蛛）*Argiope amoena*

クモ目 コガネグモ科

体長：メス 20~30mm オス 5~7mm

分布：本州・四国・九州・南西諸島

成体出現時期：7月～9月

メスの腹部は黄色と黒のしま模様¹⁾。オスは体が小さく、体色も地味である。平地の草むらに生息し、丈の高い植物の間に垂直円網を張る。X字型やその一部を省略した隠れ帯を網に付ける。ナガコガネグモ、チュウガタコガネグモなどの類似種とは腹部のしま模様のパターンや体の大きさの違いで識別できる。



図 2. コガネグモ♂(2017年5月
21日 学園木花台南)

【メスとオスの違い】

成熟後も円網を張るメスに対して、オスは成熟すると網を捨てて遊動するようになる。メスの体色は黒と黄色の警戒色で目立つが、オスは天敵から身を隠すため体色が地味である。またコガネグモの仲間の多くはメスに比べてオスが圧倒的に小さい²⁾。オスが小さいことによる利点をロビンソン夫妻は①メスの網に寄生して餌や食料をもらうことができる②メスの最終脱皮をメスの網の近くで待っていても邪魔にならない③小さいほど、メスに餌と間違えられて攻撃される危険が少ない、等と挙げている。

【隠れ帯の謎】

コガネグモの網を見ると、白いX字型模様のジグザグ状に織られた糸がある²⁾。これは隠れ帯と呼ばれ、何のためにあるのかはまだわかっていない。隠れ帯という名の通り捕食者から身を隠すためにあるという意見の他、研究者の間では①「網の調節のためにある」という説②「網が壊されないようにするために」説③「捕食者を戸惑わせるため」という説がある。

参考文献

1) 馬場友希・谷川明男 (2015) クモ ハンドブック 文一総合出版

2) 梅谷献二・加藤輝代子編著 (1989) クモのはなし I 技報堂出版